

第2章 結果

第1節 問題行動の実体験の有無

先述のように本研究では、問題行動に対する青少年の意識と実態について明らかにするとともに、さまざまな背景要因との関連を検討することにより、現代青少年の問題行動対応策の有用な一資料を得ることを目的としている。問題の全体像についてありのままに把握するためには、可能なかぎり地域や学校種別などに偏りのない大規模な調査が必要である。本年度の調査では、16都県において調査を実施した。本節では、まず各種問題行動の実体験の有無についてみていくことにする。

第1項 飲酒経験の有無

飲酒経験があるかないかについて、「1＝全くない」「2＝1～2度ある」「3＝時々ある」「4＝よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、飲酒したことがあると回答した者は、全体では72.8%であり、男女別では男子76.3%、女子70.3%であった（図2-1-1）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「時々ある」という回答がもっとも多くみられた（男子42.3%、女子35.9%）。以上の結果から、多くの高校生が飲酒経験を持っており、高校生において飲酒行動はさほど非日常的な行動ではないことが明らかになった。

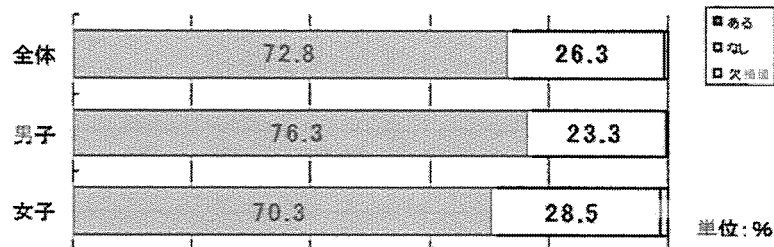


図2-1-1 飲酒経験率

第2項 無免許運転経験の有無

無免許でバイクや車を運転した経験があるかないかについて、「1＝全くない」「2＝1～2度ある」「3＝時々ある」「4＝よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、無免許運転の経験があると回答した者は、全体では10.2%であり、男女別では男子17.3%、女子5.2%であった（図2-1-2）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子81.9%、女子93.9%）。また、無免許運転の経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に11.3%、4.0%、2.0%、女子では「1～2度ある」4.4%となっており、多数ではないが、経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。特に男子では、約2割つまり5人に1人の割合で無免許運転の経験があることが明らかになった。

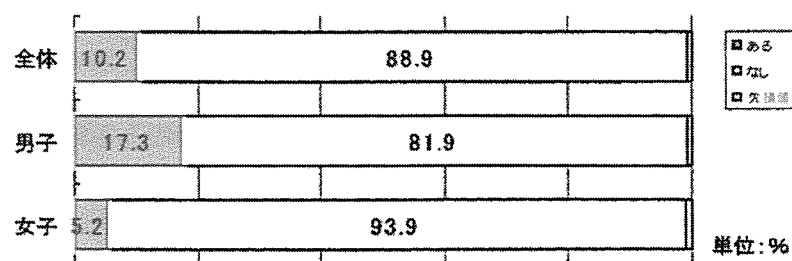


図2-1-2 無免許運転の経験率

第3項 自転車やバイク窃盗の経験の有無

他人の自転車やバイクを盗んだり勝手に使うという経験があるかないかについて、「1 = 全くない」「2 = 1～2度ある」「3 = 時々ある」「4 = よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では9.7%であり、男女別では男子16.9%、女子4.6%であった（図2-1-3）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子83.0%、女子95.3%）。また、そうした経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に9.7%、4.9%、2.4%、女子では「1～2度ある」3.2%、「時々ある」1.2%となっており、多数ではないが、経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。特に男子では、約2割つまり5人に1人の割合で自転車やバイク窃盗の経験があることが明らかになった。

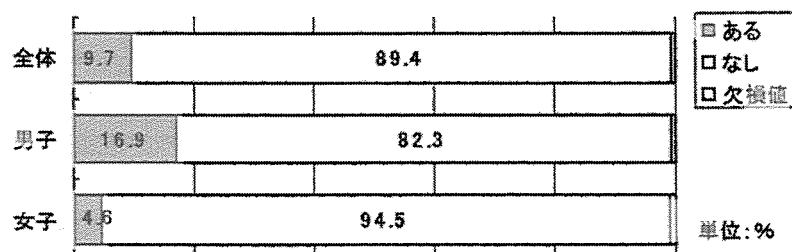


図2-1-3 自転車やバイク窃盗の経験率

第4項 万引き等の経験の有無

他人のお金や物を盗む経験があるかないかについて、「1 = 全くない」「2 = 1～2度ある」「3 = 時々ある」「4 = よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では15.3%であり、男女別では男子21.3%、女子11.0%であった（図2-1-4）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子77.9%、女子87.9%）。また、そうした経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に14.2%、5.7%、1.6%、女子では「1～2度ある」8.7%、「時々ある」2.0%となっており、多数

ではないが、男女ともに経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。

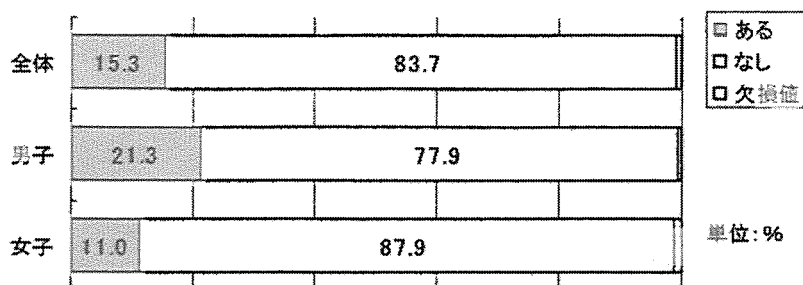


図2-1-4 万引き等の経験率

第5項 恐喝の経験の有無

人を脅して金品を取り上げる行動の経験があるかないかについて、「1 = 全くない」「2 = 1～2度ある」「3 = 時々ある」「4 = よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では3.0%であり、男女別では男子6.4%、女子0.6%であった（図2-1-5）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子92.8%、女子98.6%）。また、そうした経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に4.5%、1.2%、0.8%、女子では「1～2度ある」0.6%となっており、ごく少数ではあるが、経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。

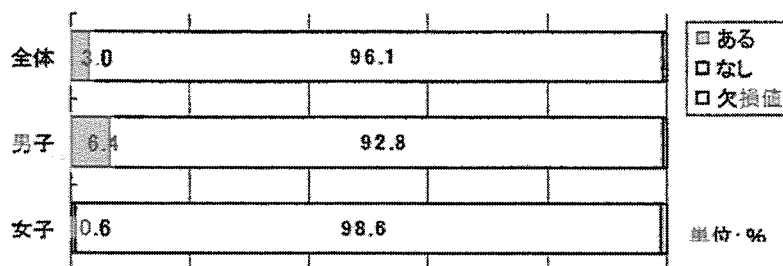


図2-1-5 恐喝の経験率

第6項 暴行の経験の有無

人を殴ったり蹴ったりしてケガをさせる経験があるかないかについて、「1 = 全くない」「2 = 1～2度ある」「3 = 時々ある」「4 = よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では22.8%であり、男女別では男子41.4%、女子9.5%であった（図2-1-6）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子58.0%、女子90.4%）。また、そうし

た経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に33.1%、7.8%、1.2%、女子では「1～2度ある」8.7%となっており、男子では約半数近くの者が経験があることが明らかになった。

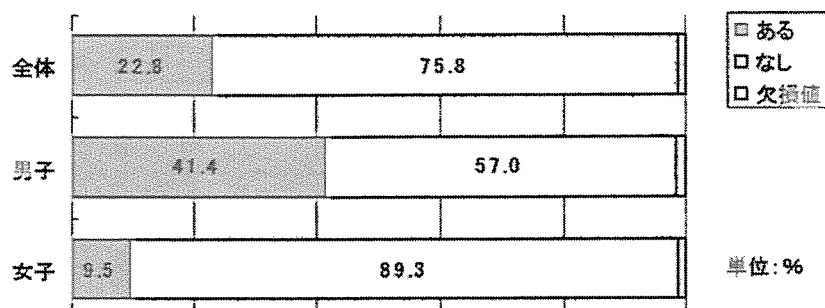


図2-1-6 暴行の経験率

第7項 薬物乱用の経験の有無

人を脅して金品を取り上げる行動の経験があるかないかについて、「1＝全くない」「2＝1～2度ある」「3＝時々ある」「4＝よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では2.3%であり、男女別では男子4.4%、女子0.9%であった（図2-1-7）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子94.8%、女子98.3%）。また、そうした経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に1.5%、1.2%、1.6%、女子では「1～2度ある」0.6%となっており、ごく少数ではあるが、経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。

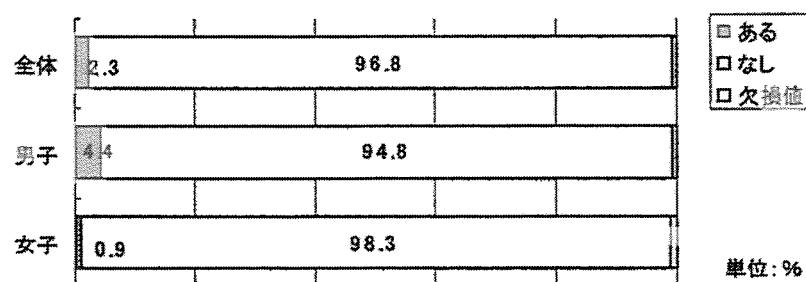


図2-1-7 薬物乱用の経験率

第8項 性行為を伴わない援助交際の経験の有無

お茶やデート、カラオケなどまでの援助交際の経験があるかないかについて、「1＝全くない」「2＝1～2度ある」「3＝時々ある」「4＝よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では3.4%であり、男女別で

は男子6.4%、女子1.2%であった（図2-1-8）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子92.0%、女子97.7%）。また、そうした経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に2.9%、2.0%、1.6%、女子では「1～2度ある」0.3%、「時々ある」0.9%となっており、ごく少数ではあるが、男女ともに経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。

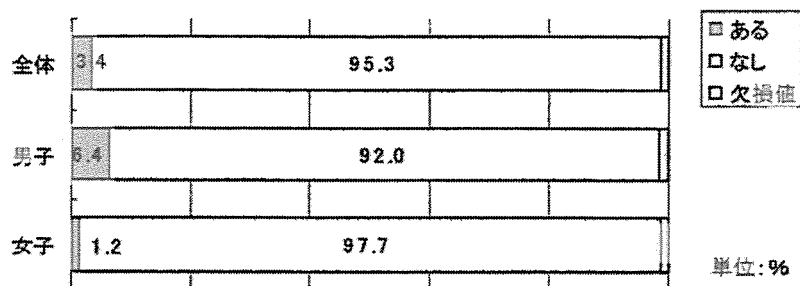


図2-1-8 性行為を伴わない援助交際の経験率

第9項 性行為を伴う援助交際の経験の有無

キスやセックスなど性行為を伴う援助交際の経験があるかないかについて、「1＝全くない」「2＝1～2度ある」「3＝時々ある」「4＝よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では2.3%であり、男女別では男子5.2%、女子0.3%であった（図2-1-9）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子92.8%、女子98.6%）。また、そうした経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に2.5%、1.6%、1.2%、女子では「1～2度ある」0.3%となっており、ごく少数ではあるが、経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。

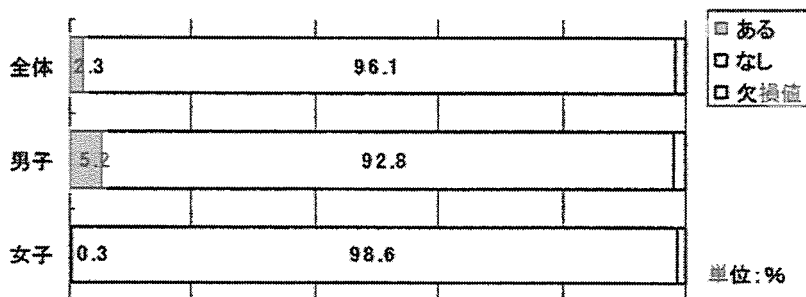


図2-1-9 性行為を伴う援助交際の経験率

第10項 性行為強要の経験の有無

キスやセックスなど性行為を伴う援助交際の経験があるかないかについて、「1＝全く

ない」「2＝1～2度ある」「3＝時々ある」「4＝よくある」の4段階評定で回答を求めた。その結果、そうした経験があると回答した者は、全体では2.9%であり、男女別では男子5.6%、女子0.9%であった（図2-1-10）。頻度別にみると、全体および男女別ともに「全くない」という回答がもっとも多くみられた（男子92.4%、女子97.7%）。また、そうした経験があると回答した者の内訳をみると、男子では「1～2度ある」から「よくある」まで順に2.9%、0.8%、2.0%、女子では「1～2度ある」0.3%、「よくある」0.6%となっており、ごく少数ではあるが、経験者あるいは常習者がいることが明らかになった。

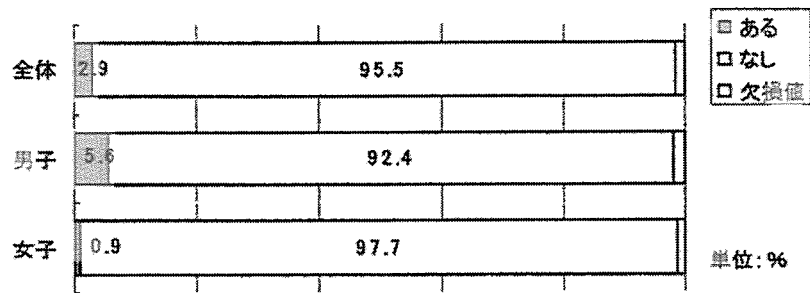


図2-1-10 性行為強要の経験率

第2節 問題行動に対する意識

本節では、各種問題行動に対してどれだけ「いけない」ことだと思うか、現代青少年の道徳意識について明らかにする。

第1項 飲酒経験に対する意識

飲酒行動に対する意識について、『お酒を飲むことはいけないことだと思う』という質問文を提示し、「1＝全く思わない」「2＝あまり思わない」「3＝どちらでもない」「4＝ややそう思う」「5＝とてもそう思う」の5段階評定で回答を求めた。その結果、お酒を飲むことはいけないと「全く思わない」と回答した者は19.6%、「あまり思わない」と回答した者は42.0%、「ややそう思う」と回答した者は17.1%、「とてもそう思う」と回答した者は5.2%であった（図2-2-1）。これらより、現代高校生においては、お酒を飲むのはあまりいけないこととは考えていないことが明らかになった。また、男女別の内訳をみると、「全く思わない」「あまり思わない」まで男子では順に26.2%、41.1%、女子では順に14.9%、42.6%、「ややそう思う」「とてもそう思う」まで男子では順に16.9%、3.6%、女子では順に17.2%、6.4%であった。男女を比較すると、男子の方がより飲酒行動をいけないこととは考えていないことが明らかになった。